

# 子どももの国

## だより

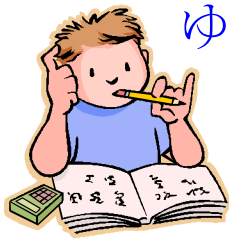
2006.4. 発行 vol.14



NPO 法人 子どもの国

ホームページ <http://www.kodomonokuni-aichi.org>

メールアドレス [kodomonokuni1999@yahoo.co.jp](mailto:kodomonokuni1999@yahoo.co.jp)



## ゆめの木教室

平成17年度のゆめの木教室は児童が最大で24人も出席し、勉強する机が足りない程の日もありました。スタッフの目が行き届かない時もあり、3月某日、事件は起こりました。毎日の勉強後に食べるおやつを誰かが一人でこっそり食べてしまい、お菓子の袋などの残骸をトイレに流したのです。子どもたちを集めて緊急の話し合いが行われました。「話し合い」は問題が起こった時にゆめの木教室ではいつも行われます。子どもたちは「オレ関係ないも〜ん」という様子でなかなか真剣にはなりません。

最終的にある子から「いつかその子は泥棒になってしまう」という意見が出ました。次第にまじめになり、「人の迷惑を考える」「みんなの問題として見つけたら注意してあげよう」とまとめられました。

表情が暗く、意見を最後まで言わなかった子がいました。その子だけではなく、子どもたちみんなの頭の片隅にこの話し合いが残れば、と思います。

毎回ゆめの木教室で「どうしたら学力がつくだろう」とスタッフ全員で頭を悩ましていますが、子どもたちの道徳的な問題もまた答えがひとつでないために対応が本当に難しいです。



## そら

2005年度 下半期「そら」を振り返って

「青少年の自立支援」を掲げる「そら」では、今年度後半も、関わりの中で気づきあうことを大切にして活動してきました。パソコン教室では、それぞれの興味に沿ってインターネットの検索をし、その成果を発表することで「人とは違う自分、自分とは違う相手」の存在に気づくことを目的としました。2月以降は社会人のスタッフや、この春から社会人となるスタッフの職業観を語ることで、メンバー個人と社会とを繋ぐ役割を果たそうとしてきました。こうした関わりをきっかけにして、そらメンバーから「パティシエになりたい」「介護の仕事がかっこいいと思う」など将来への具体的な話を聞くこともでき、関わってきたスタッフにとっても、他では得られない有意義な時間になりました。しかしながら、メンバーとスタッフ間のある種の「甘えた」姿勢を指摘されることもあり、時に来訪者に対する失礼な態度を見過ごしてしまう場面がありました。また活動計画をスタッフ主導で進めたために、それぞれの想いが噛みあわない印象を持つこともありました。

これらの反省に加えて、そら の価値をさらに高めるために、活動の目的と手段を見直しています。さらに2006年度春からは、メンバーとともに活動計画の立案を進めています。今年度の そら も充実した活動ができるよう、今後も皆様からのご意見などをお待ちしています。

## 交流会



秋からの交流会ではハロウィンの仮面作り、ブラジルの凧づくりなどをしました。子どもたちの個性がキラリと光る素敵な作品がいくつも誕生しました。3月、今年度「子どもの国」を卒業されるスタッフのお別れ会では「子どもの国」の一年間を振り返るビデオ（スタッフ力作）を見て、懐かしい映像から時の経つ速さを感じました。その後子どもたちからは歌のプレゼントがありました。♪「大空がむかえる朝」M くん のり



コーダーでの伴奏もありとても素敵な合唱でした。卒業されるスタッフを前に、お別れの気持ちで素直に接する子どもたちと、みなさんの言葉や表情がとても印象的な会となりました。

今年度の交流会では、子どもの保護者にゆめの木教室のこと、関わっているスタッフのことをもっと知ってほしい、そして子どもと一緒に楽しんでほしい、という想いでさまざまな企画を行ってきました。

毎回 50 人弱の参加があり子どもとスタッフ、保護者とスタッフ、スタッフ同士も交流を持てる良い機会となりました。次年度も、さらに実りある交流会を企画していきたいと考えています。

## 西保見小学校の先生からお手紙をいただきました。

ゆめの木さんの支援で、西保見小の子は、本当に毎日を円滑に送ることができています。宿題をはじめとした学習面ばかりでなく生活面においても、どれだけ助けていただいているかはかりしれません。  
(一部抜粋)

今年度 ゆめの木教室を  
卒業される スタッフの方より コメントを  
いただきまして



### ● 河口 苗子

3年間細々と続け、今に至っています。来る前は日本語を教える機会としてこの場所を考えていたので、初めて教室に来て、三河弁を流暢に操る子どもたちを見て愕然としたのを覚えています。それでも何か問題を抱えていると言われる子どもたちに対して自分は何ができるのか、それを通して何を得られるのか、そんなことを考えながらやってきたように思います。今同じように、子どもたちを目の前にして思うことといえば、私たちスタッフと子どもたちとで何をつくっていけるのか、子どもの国の活動が日本に何を発信できるのか、ということでしょうか。この3年間でなんだか考え方が随分変わったようです。色々な方に支えられ、楽しく活動を続けることができました。ありがとうございました。

### ● 川崎 絵美

1年半ゆめの木のスタッフをやらせて頂きましたが、すごく充実してて、毎回子どもと話していると楽しかったです。一生懸命、自分の想いを伝えてくれる子どもたちの姿がカワイイと思えました☆

### ● 鈴木 しづか

二年間という短い間ではありましたが、皆さんのおかげでとても楽しく充実した時間を過ごすことができました。子どもの国での出来事は、私自身を見つめなおすいい機会になりました。これからはあまり参加することはできませんが、機会があったら是非また参加させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

## ● 林 恭子

約2年半、「子どもの国」でお世話になりました。活動の中で、迷ったり、悩んだりすることもありましたが、スタッフの方のご意見や行動から、多くの学びを得ることができました。「ゆめの木教室」での子どもたちとの関わりから、多くの元気をもらい、「そら」での青少年との関わりから、将来を見つめて生きることの大切さを学ぶことができました。「子どもの国」で学んだことを今後の自分の人生に生かして、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

## ● 山路 今日子

私は、ゆめの木教室に約2年間、そらには1年間関わってきました。その中で、どうすれば良いのだろうと頭を悩ませることも多かったです。そのようなことを通して私も沢山のことを勉強し、子どもたちと一緒に少しでも成長することが出来たと思います。また、この一年は就職活動もあり個人的に落ち込むことも多かったのですが、ここで皆と過ごす中で元気を貰うことも何度もありました。子どもの国のスタッフとして活動することが出来て本当に良かったと思います。ありがとうございました。



## ● 山田 大祐

「自分にも、なにか手伝えることがあるだろう」という安易な気持ちでゆめの木教室に通い始めて、2年近くが経ちました。今思えばあまりにも早く、そして充実した時間でした。特に子どもたちと関わる活動は、将来への長期的な視点が不可欠だと思っています。それに気づかせてくれたのは「ゆめの木教室」でした。また、自分はスタッフとして子どもたちと同じ時間を過ごすことで、ひとつ自分の夢に近づくことができました。ここで得られた言葉にならない想いは、自分にとって糧になると信じています。皆様に感謝しています、ありがとうございました。

## ● 山本 哲也

自分から積極的にイニチアチブをとって人と接していくことが苦手な私は、自分の思い描くような理想的な子どもたちの教え手や友達になろうとしてもなかなか上手くいかず、自分がこうした分野に不向きなことを4年間を通じて幾度も痛感してきました。それでも子どもたちと関わっていく中で、彼らの持っている優しさや、目を輝かせて遊びに打ち込む姿を見て、柄でもなく微笑ましい気持ちになることも多々ありました。また、数年前まだ幼く無愛想だった子たちが頼もしいお兄さんお姉さんへと成長していくのを見ることができたのも喜びです。

## ● 吉川 知佳

ゆめの木教室での活動のきっかけは、卒業論文のテーマである「外国籍児童の教育問題—日系ブラジル人児童の日本語指導とその実態—」のテーマ研究のためでした。研究テーマに関して全く知識のない私は、とにかく午後2時から午後6時まで子どもと接しまくることが研究の第一歩になっていきました。子どもが大好きである私にとって、ゆめの木教室は、子どもたち・スタッフのみなさんを通して、さまざまな視点からさまざまなテーマで勉強できる場であったと同時に私自身も楽しめる場でした。そんなゆめの木教室で活動できたことをとてもうれしく思います。ありがとうございました。



今までありがとうございました

